

和歌山

地域面3ページ

和歌山支局

〒640-8154 和歌山市六番丁5
 和歌山第一生命ビル4階
 TEL073(431)1411
 FAX073(433)0650
 wakayama@mainichi.co.jp

【通信機関】

橋本	0736(32)0063	新宮	0735(28)1751
海南	073(482)0675	御坊	0738(22)2511
湯浅	0737(62)2870	田辺	0739(26)1026
【広告問い合わせ】		073(423)9291	
【購読問い合わせ】		0120-468012	

肩の止し
 マーク失崎
 10 E

湯登神事と宮渡神事に神の予感

絵と文・熱田親喜 題字・熱田泰華

熊野古道

みちのくきき記

②

熊野三山の中心地・本宮大社で、今年も春の例大祭が執り行われた。このお祭りは五穀豊穡を願う3日間の春



宮渡神事。大斎原(田辺市本宮町本宮)にて

祭り。その初日、4月13日の湯登神事と宮渡神事に立ち会うことができた。

まずは湯登神事。参加者は宮司と神職、氏子、神楽人(笛、太鼓)、稚児、氏子総代など約30人で、主役の稚児は11人。午前9時半、ウマ役の父親に肩車された稚児は大社本殿前に一列横隊、宮司に合

わせて拝礼。「湯登神私達は小栗判官の「つ

て、難所の大日越えを登り始めた。私は大斎原に先回りして夕刻の宵宮行列・宮渡神事を待つことにした。午後6時、大斎原の大鳥居がライトアップされ、本宮大社からほら貝の合図。まもなく稚児の一行が参道に現れた。霧雨の中を大きな提灯の先導で大鳥居へ向かう稚児の列は、幽玄な時代絵巻そのも

事を通して、神々の魂・わが子の命を熊野の神の申し子として体感

「ぼ湯」、名刹の「東光寺」、茹で卵の「湯筒」などを散策した。午後1時15分、高台の湯の峰王子社へ登った一行は社殿前で稚児たちを囲み、太鼓と笛、笙が奏でられる中で、祭典が厳かに執行された。次は、稚児が自分

の太鼓を叩きながら、列の中に一人の外国人の父親がおり、稚児の肩車を支えるため、母親の日本人が掛八撥神事。汗を拭ったけ寄り、稚児と父親を

父はよい思い出ができた。子供には、皆と一緒になり、挑戦する前向きな心が持てるよう願っている。お二人とも、神事は親子の絆を深める場であり、親の願いとして強い子に育てるための苦行の場と捉えているようだ。神事は観光イベントでなく、本宮大社の氏子の成長の営みの一コマである。

霧雨の幽玄な稚児の列